

3. 社会・文化関連分野

- ・ 世界に開かれた、文化豊かな社会づくりに関する復興状況を把握するため、以下の指標を選択し整理した。

	アウトカム指標 (県民生活や社会経済の復興状況を、 総合的に示す指標)	アウトプット指標 (復興事業等における行政の活動量 や、それにより生じた現象を表す指標)
(1) ボランティア活動・ 体験活動	ボランティア等で社会のために活動してみたい人の割合 県政に関心がある県民の割合 体験活動が子どもの成長に役立つ と思う人の割合	市町ボランティアセンターに登録 している活動者数の推移 特定非営利活動法人認証数 災害復興ボランティア活動補助の 助成件数と助成額
(2) 新たな防災教育	児童数の推移 心のケアを必要とする児童・生徒 数	新たな防災教育のカリキュラムの 立案状況 学校独自の災害対応マニュアルの 作成状況
(3) 男女共同参画	-	女性問題相談件数の推移 県審議会等委員の女性の割合
(4) 文化活動	演劇公演回数 博物館・美術館入場者数	歴史的建造物等の復旧状況 被災地芸術文化活動への助成額
(5) 地域の国際化	外国人登録者数 留学生数 国際会議開催件数 県内国際機関数 外国人客入込数	-
(6) 犯罪発生状況	犯罪発生率の推移	-

(1) ボランティア活動・体験活動

市町ボランティアセンターに登録している活動者数の推移

- 市町ボランティアセンターに登録しているボランティア活動者数は、平成 14 年度時点で、約 8.7 万人である。また、市町ボランティアセンターに登録していないが、活動を把握できている活動者数を含めると、平成 14 年度時点で、約 16.0 万人である。

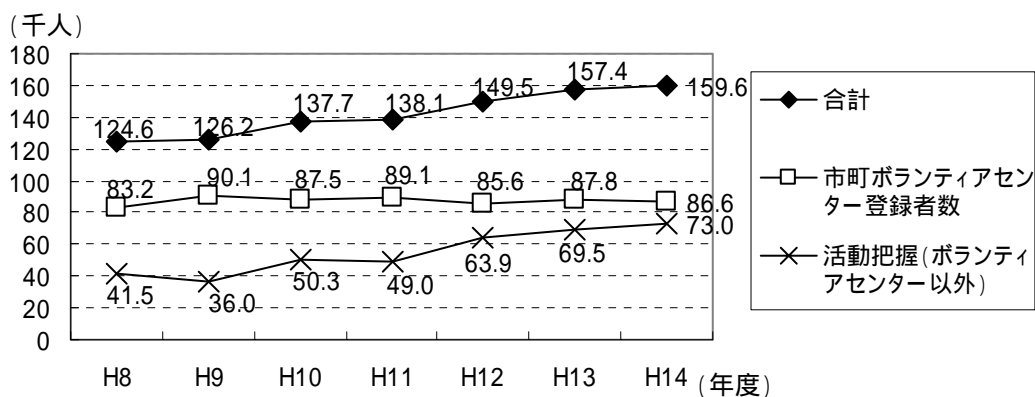


図 - 3 - 1 : 市町ボランティアセンター登録活動者数の推移
(出典：兵庫県社会福祉協議会調べ)

特定非営利活動法人認証数

- 兵庫県における特定非営利活動法人の認証数は、平成 15 年度で 521 団体となっている(人口 10 万人あたりの認証数は 9 団体)。

表 - 3 - 1 : 特定非営利活動法人認証数の推移

	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度
東京都	386	863	1,459	2,252
神奈川県		243	398	622
大阪府		274	493	864
兵庫県		118	193	326

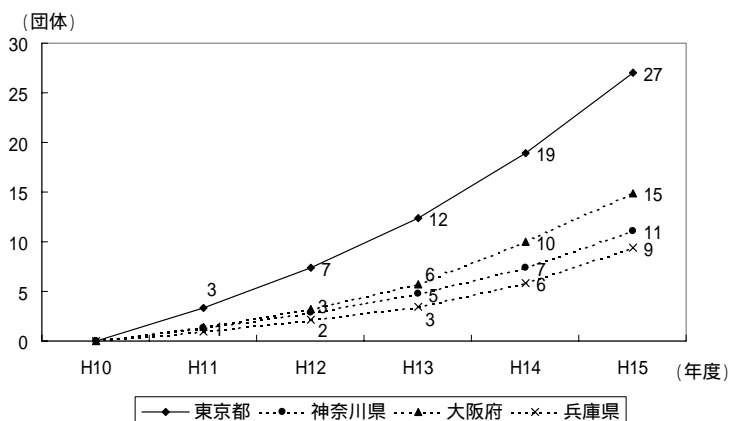


図 - 3 - 2 : 特定非営利活動法人認証数(人口 10 万人あたり)の推移
(出典：内閣府国民生活局調べ)

災害復興ボランティア活動補助の助成件数と助成額

- ・ 災害復興ボランティア活動補助は、被災者の生活、自立を支援するボランティア活動に要する経費の一部(一般的経費、事務所借上費、特別活動費(被災者の交流会等に要した経費))を助成するものである。
- ・ 平成7年度以降、多様なボランティア活動が展開され、平成11年度には年間約2,500件(約2.5億円)の助成が行われた。平成13年度以降は、年間約1,600件(約1.5億円)程度で推移している。

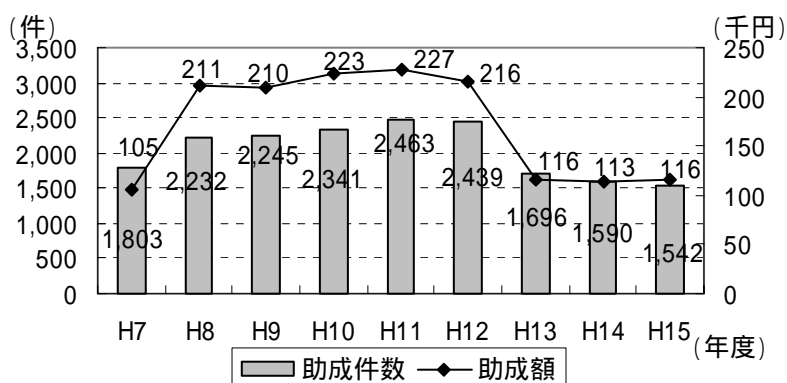


図 - 3 - 3 : 災害復興ボランティア活動補助の助成件数と助成額の推移
(出典：兵庫県参画協働課調べ)

ボランティア等で社会のために活動してみたい人の割合

- ・ 「ボランティア等で社会のために活動してみたい」とする回答者の割合は、平成13年度には27%であったが、平成15年度では43.1%となっている。

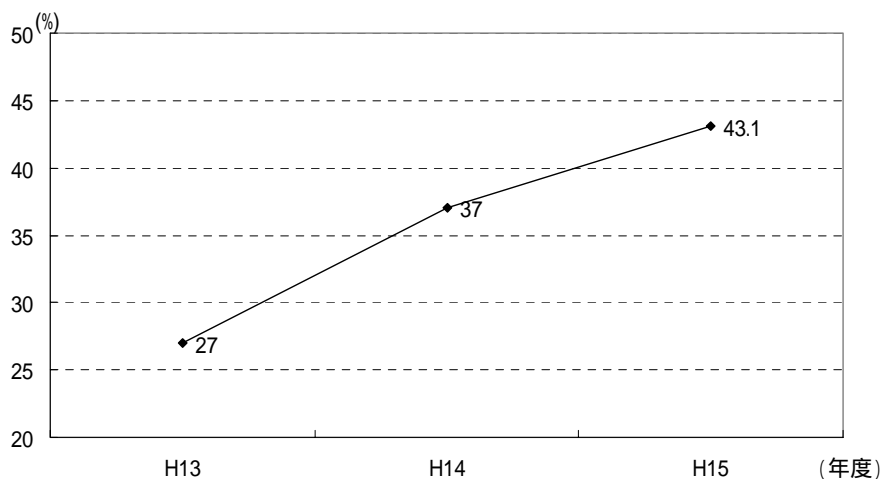


図 - 3 - 4 : ボランティア等で社会のために活動してみたい人の割合
(出典：「美しい兵庫指標」県民アンケート)

県政に関心がある県民の割合

- ・ 「県政に関心がある」と回答した割合は、平成 10 年度には 61.6%であったが、平成 15 年度では 71.6%となっている。

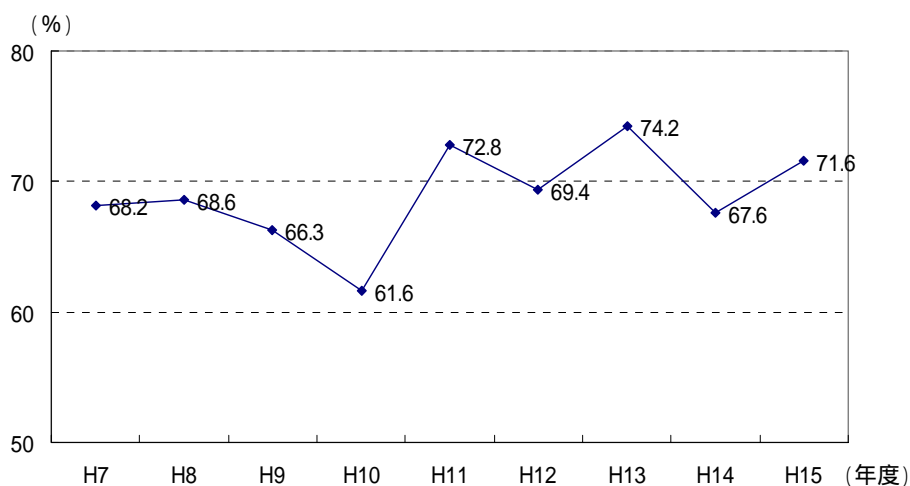


図 - 3 - 5 : 県政に関心がある県民の割合
(出典：県民意識調査)

体験活動が子どもの成長に役立つと思う人の割合

- ・ 「体験活動が子どもの成長に役立つと思いますか」との問いに対して「そう思う」「まあそう思う」と回答した人の割合は、平成 13 年には 62.0%であったが、平成 15 年では 79.3%となっている。

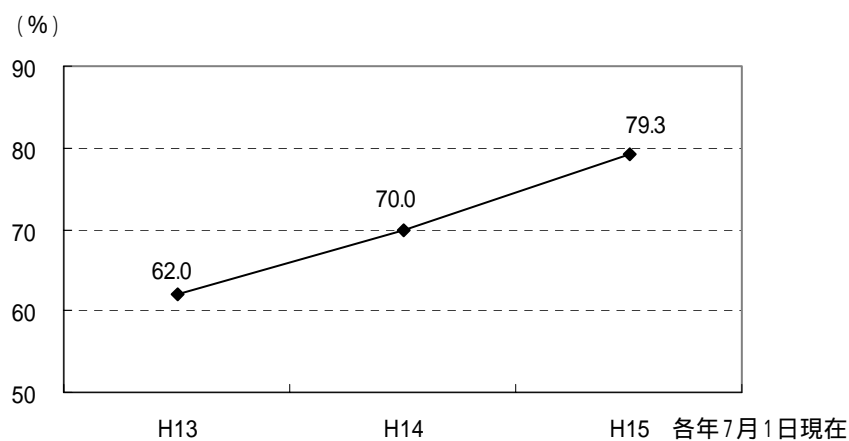


図 - 3 - 6 : 体験活動が子どもの成長に役立つと思う人の割合の推移
(出典：『美しい兵庫指標』県民アンケート結果)

(2) 新たな防災教育

児童・生徒数(小中学校)の推移

- 児童・生徒数は全国的に減少しているが、被災地では震災以降、全国・兵庫県に比べて、児童・生徒数が減少しており、平成 15 年度で震災前比 82.2 ポイントとなっている。

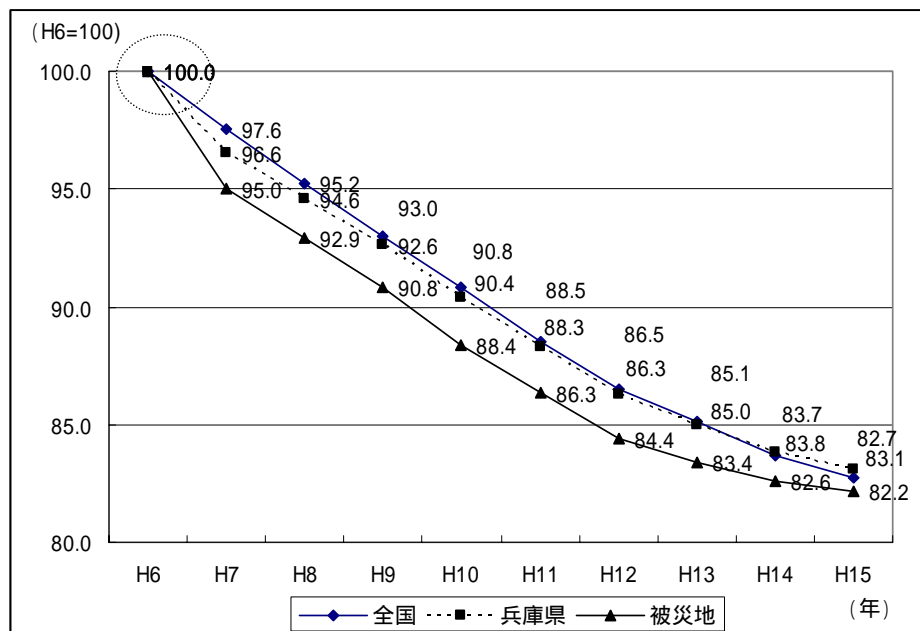


図 - 3 - 7 : 児童・生徒数の推移
(出典：学校基本調査)

心のケアを必要とする児童・生徒数

- 平成 8 ~ 平成 11 年の間は、心のケアを必要とする児童・生徒数が 4,000 人前後で推移していたが、平成 12 年以降減少し、平成 16 年では 1,337 人となっている。

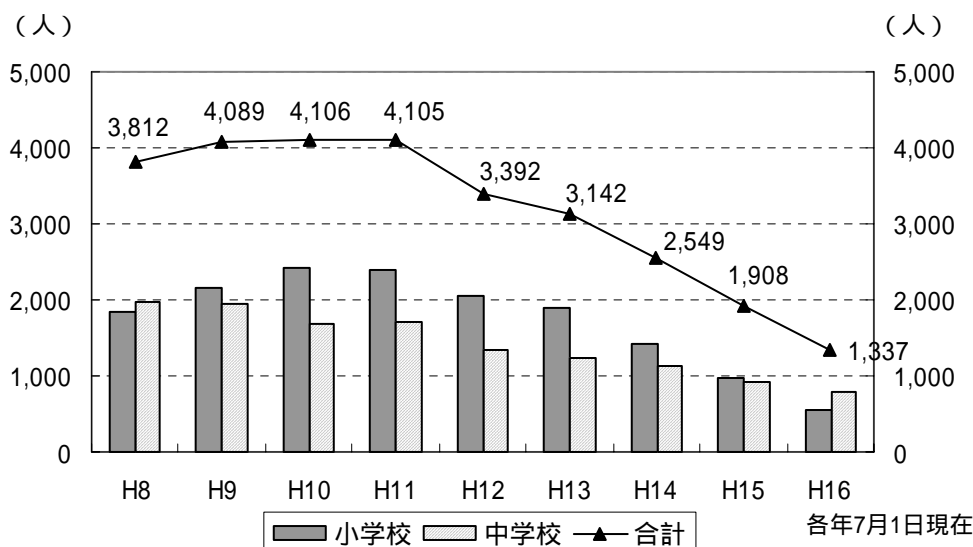


図 - 3 - 8 : 心のケアを必要とする児童・生徒数の推移
(出典：兵庫県教育委員会調べ)

新たな防災教育のカリキュラムの立案状況

- ・ 兵庫県下において、新たな防災教育カリキュラムを立案している学校の割合の推移を見たものが下図である。
- ・ 小学校、中学校においては、平成 9 年度以降増加し、平成 15 年度には約 60%の小中学校で新たな防災教育カリキュラムを立案している。
- ・ 高校及び盲・聾・養護学校における取組割合は、平成 9 年度以降約 10～20%で横ばいである。

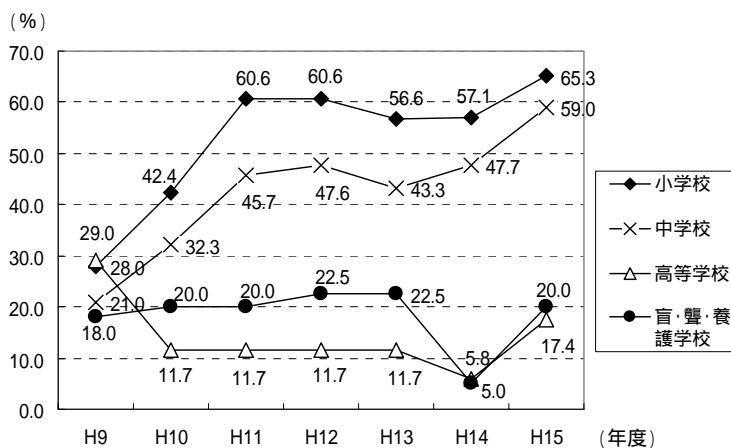


図 - 3 - 9 : 兵庫県下学校における防災カリキュラム立案状況
(出典：兵庫県教育委員会調べ)

学校独自の災害対応マニュアルの作成状況

- ・ 県教育委員会は平成 9 年度に「学校防災マニュアル」を作成して各学校に配布し、それぞれの学校の地域性を考慮した「学校独自の災害対応マニュアル」を作成することを推進している。
- ・ 各学校とも作成割合は増加し、平成 15 年度では、小学校、中学校、盲・聾・養護学校の 80%以上が作成している。

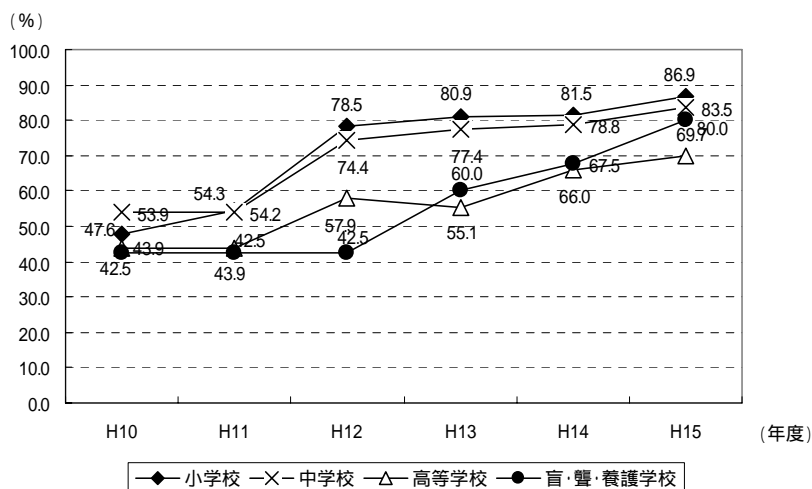


図 - 3 - 10 : 兵庫県下公立学校における学校独自の「災害対応マニュアル」作成状況
(出典：兵庫県教育委員会調べ)

(3) 男女共同参画

女性問題相談件数の推移

- ・ 県立男女共同参画センター(旧県立女性センター)における女性問題に関連する相談件数は、震災を契機に激増したが、平成12年度以降は、年間約4,000件弱で推移している。

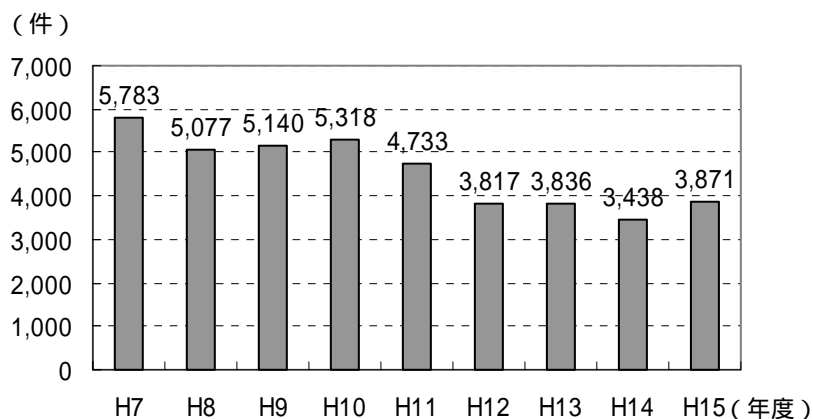


図 - 3 - 1 1 : 県立男女共同参画センター(旧県立女性センター)における女性問題相談件数の推移
(出典: 兵庫県男女家庭課調べ)

県審議会等委員の女性の割合

- ・ 県審議会等委員の女性割合は、平成12年度まで年々増加していたが、以降25%弱で推移している。
- ・ 全国平均と比較すると、平成12年度時点では、全国平均を上回っていたが、平成13年度以降、全国平均を下回っている。

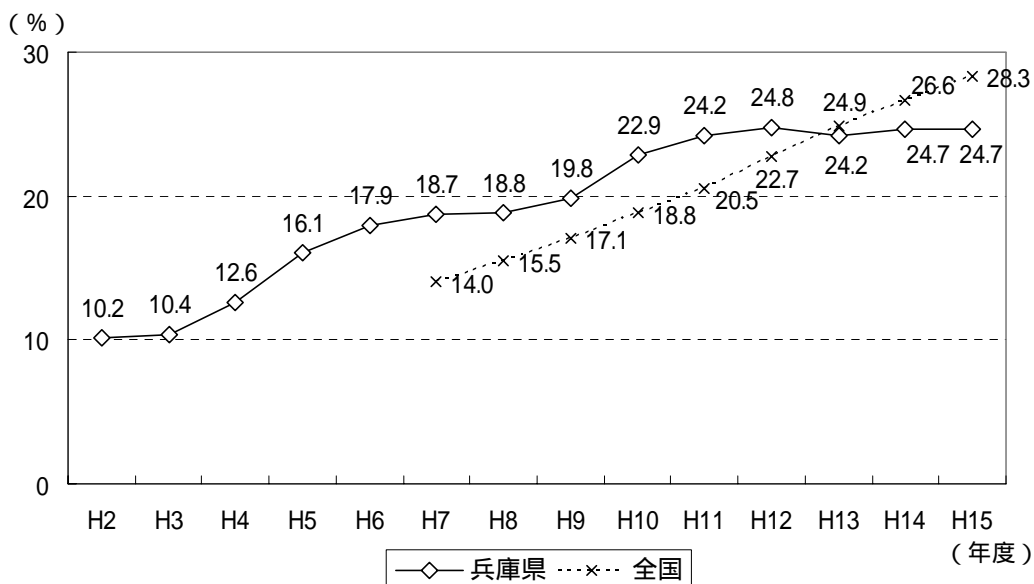


図 - 3 - 1 2 : 県審議会等委員の女性割合
(出典: 兵庫県男女家庭課調べ)

(4) 文化活動

歴史的建造物等の復旧状況

- ・ 歴史的建造物等の復旧目標 308 件のうち、平成 15 年度までに、目標の 95.5%が達成されている。

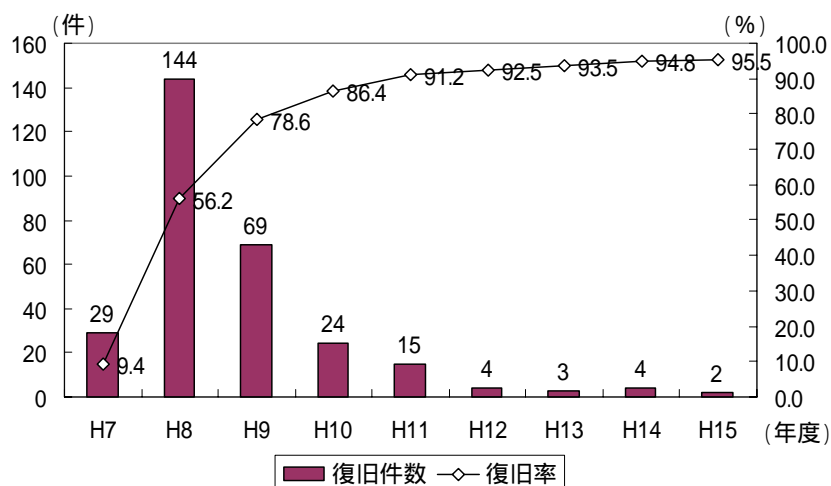


図 - 3 - 1 3 : 歴史的建造物等の復旧状況
(出典：兵庫県教育委員会社会教育・文化財課調べ)

演劇公演回数

- ・ 年間演劇公演回数は、東京、愛知では増加しているが、兵庫県では、平成 9 年度には 5,135 件であったが、平成 11 年度では 2,847 件となっている。

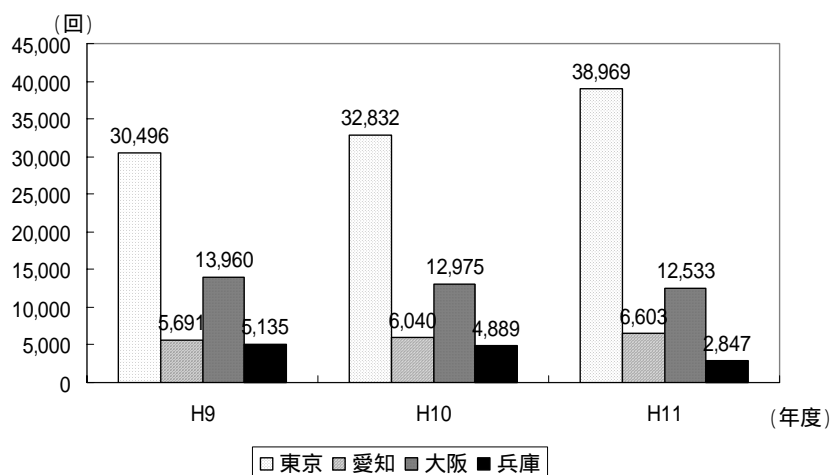


図 - 3 - 1 4 : 年間演劇公演回数
(出典：芸能白書(1999年、2001年度各版)，芸能文化情報センター編)
ここでいう演劇とは、「能楽、文楽、民俗舞台芸能、歌舞伎、現代演劇、邦楽、クラシック、ポピュラー、演芸」

被災地芸術文化活動への助成額

- 被災地芸術文化活動助成は、被災地内に活動拠点を有し、芸術・文化活動を継続的に行っている団体・個人の県内での活動経費の一部を助成するものである。
- 震災5年目にあたる平成11年度(平成12年1月)分の助成額約6,000万円をピークに、平成13年度以降は、年間4,000万円弱で推移している。

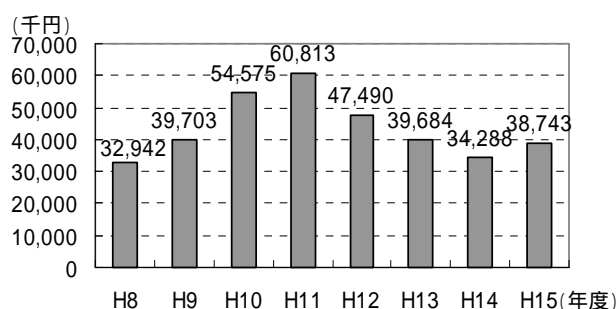


図 - 3 - 1 5 : 被災地芸術文化活動への助成額
(出典: 兵庫県芸術文化課調べ)

博物館・美術館入場者数

- 兵庫県下における博物館、美術館への入場者数の推移を見たものが下図である。兵庫県立博物館の入場者数が増加するなど、全体的に堅調な入場者数を確保している。

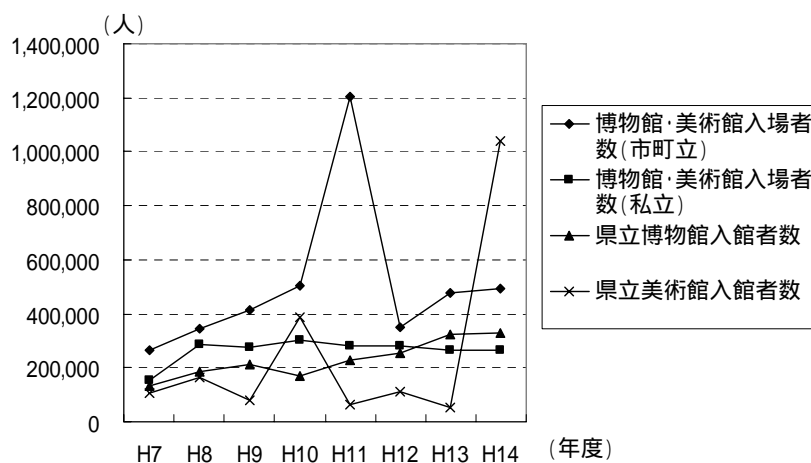


図 - 3 - 1 6 : 博物館・美術館入場者数の推移
(出典: 兵庫県教育委員会社会教育課調べ)

博物館・美術館入場者数(市町立) : 県内の市町立登録博物館・美術館7館の入館者数の合計
平成11年度には神戸市立博物館にて「オルセー美術展」
「大英博物館古代エジプト展」が開催

博物館・美術館入場者数(私立) : 県内の市立登録博物館・美術館12館の入館者数の合計

県立博物館入館者数 : 県立歴史博物館と県立人と自然の博物館の年間入場者数の合計

県立美術館入館者数 : H5-H13は近代美術館入館者数

(5) 地域の国際化

外国人登録者数

- ・ 兵庫県の外国人登録者数は漸増傾向にあり、平成 15 年で約 10 万人となっている。
- ・ 被災地域外においては、平成元年以降、増加し続けている一方、被災地域では、震災で減少し、平成 15 年では震災前比 99.5%となっている。

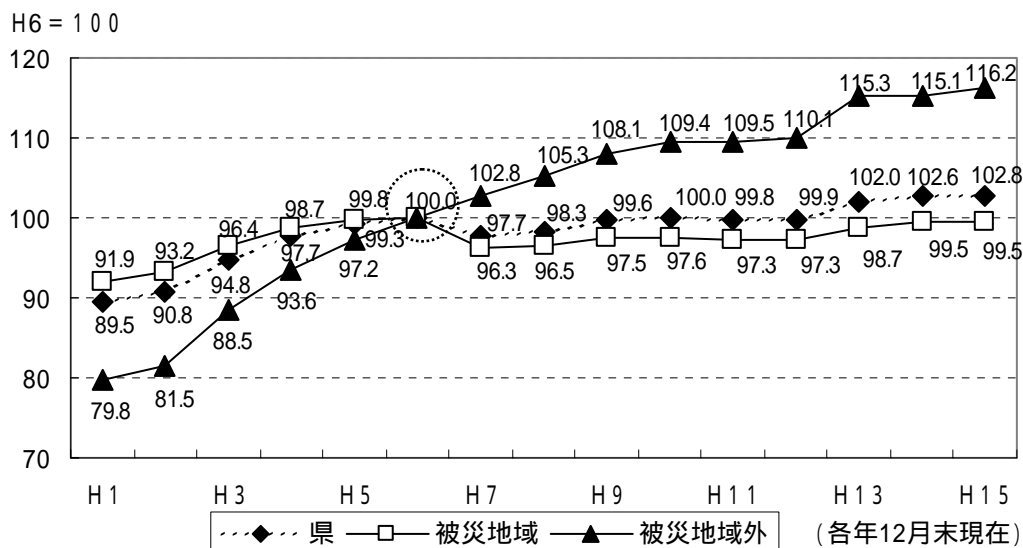


図 - 3 - 1 7 : 外国人登録者数の推移
(出典：兵庫県国際政策課調べ)

留学生数

- ・ 平成 7～9 年では、震災の影響により、留学生数が減少したが、平成 11 年に、震災前水準を回復し、平成 14 年は震災前比 181.9 ポイントとなっている。

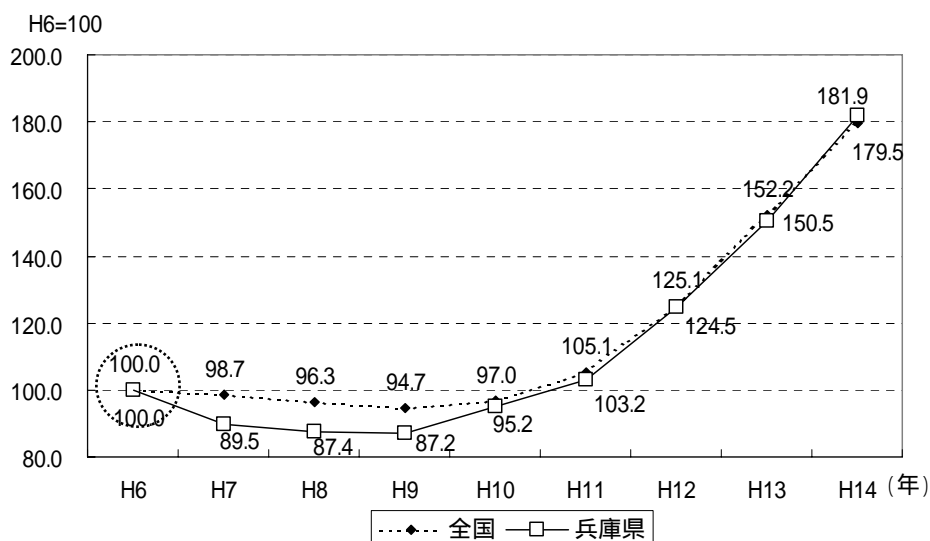


図 - 3 - 1 8 : 留学生数の推移
(出典：「在留外国人統計」(財)入管協会)

国際会議開催件数

- ・ 神戸市の年間国際会議開催件数は、平成 7 年度は震災の影響で開催回数が減少したものの、平成 10 年度には 213 件開催され、震災前水準を回復した。近年の推移を見ると、東京は増加しているが、神戸、京都、大阪は横ばいである。

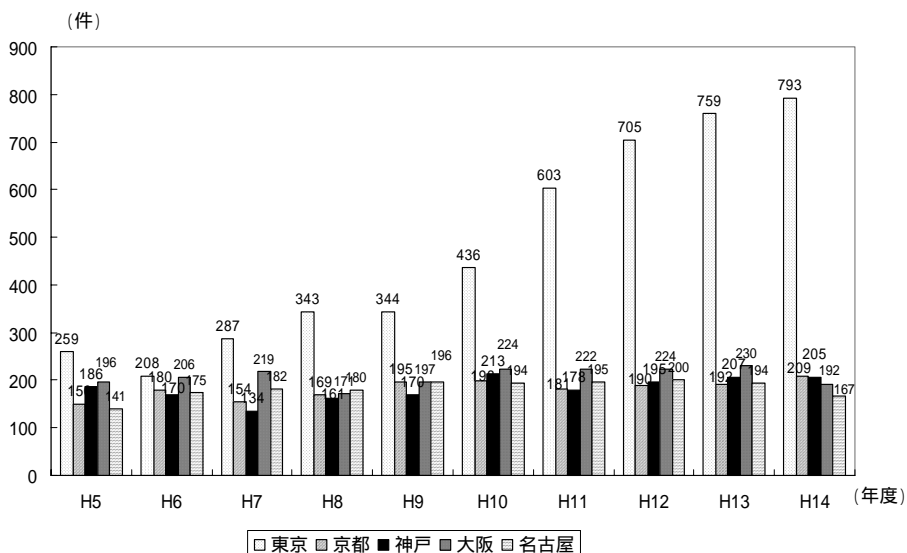


図 - 3 - 19 : 都市別国際会議開催件数の推移
(出典：兵庫県国際政策課調べ)

県内国際機関数

- ・ 平成 14 年以降、神戸東部新都心(HAT 神戸)エリアに、国際関係機関(国際協力事業団(JICA)兵庫国際センター、国連地域開発センター(UNCRD)防災計画兵庫事務所、国連人道問題調整事務所(OCHA)リーフウェブ神戸オフィス、アジア防災センター等)が集積され、国連機関等の国際機関数は、平成 15 年度で 34 機関となっている。

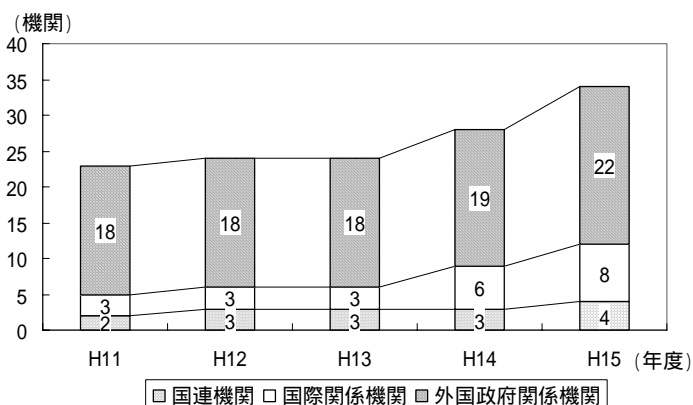


図 - 3 - 20 : 県内の国際機関数の推移
(出典：兵庫県国際政策課調べ)

国際関係機関：多国間の政府または地方政府協定等により設置された機関

外国人客入込数

- ・ 兵庫県を訪れる外国人客入込数の推移を示したものが下図である。
- ・ 平成 7 年度には震災前比 68 ポイント(約 16 万人)にまで減少したものの、その後は増加し、平成 10 年度に震災前水準に回復した。
- ・ 平成 14 年度では震災前比 131 ポイントとなっており、年間約 30 万人の外国人客が兵庫県を訪れている。

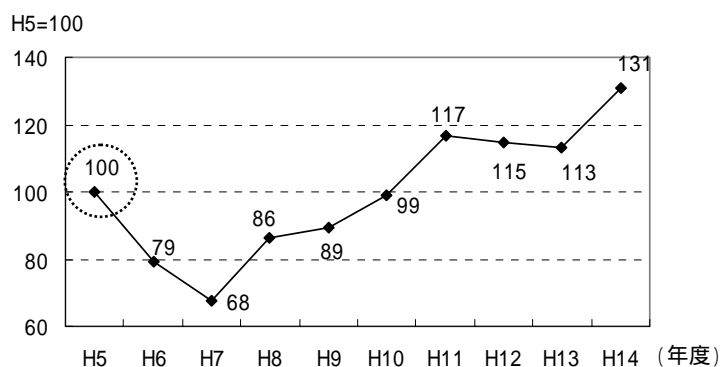


図 - 3 - 2 1 : 兵庫県への外国人客入込数の推移
(出典：訪日外国人旅行者調査，国際観光振興会)

(6) 犯罪発生状況

犯罪発生率の推移

- ・ 被災地域の犯罪発生率は、昭和 50 年から平成 7 年にかけては、1,300 件前後で推移してきたが、平成 7 年以降は急激に増加している。
- ・ 平成 14 年の犯罪発生率は、全国平均の 1.4 倍、平成 7 年の発生率と比較しても約 2.4 倍と大幅に増加している。

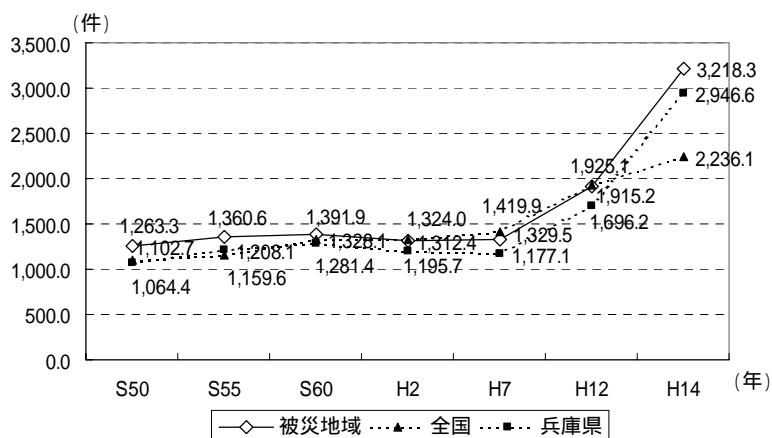


図 - 3 - 2 2 : 犯罪発生率の推移
(出典：犯罪統計(兵庫県警察本部))
犯罪発生率：人口 10 万人あたりの犯罪発生件数